

# 令和5年度 事業報告書

公益財団法人日本博物館協会

## 1 博物館の普及啓発に関する事業

### (1) 月刊誌「博物館研究」の発行

博物館関係者を主な対象に、博物館の振興に必要な情報を提供し、その普及を図ることを目的として、博物館の総合研究情報誌である月刊誌「博物館研究」を発行している。内容は、博物館の取り組むべき特集テーマに関する論文・事例、調査研究成果、博物館に関する投稿論文、海外博物館情報、各博物館の所蔵品、全国博物館の展覧会、教育普及活動、国の文化・文化財・社会教育施設に関する施策等である。企画編集委員によるテーマ・執筆者の選定を行うとともに、掲載論文等の査読を行っている。

令和5年度の発行部数は、各号2,000部（頁数は60頁）。会員館等には無料で配付し、会員館等以外には実費相当額の1冊1,200円（消費税別）で配布した。

#### <各号の特集のテーマ>

- 4月号「令和3年度博物館園数関連統計」
- 5月号「令和4年度新館紹介」
- 6月号「これからの博物館制度を考える―改正博物館法施行」
- 7月号「博物館とトイレ」
- 8月号「レトロ・ノスタルジー展示の長所と課題」
- 9月号「博物館を支える組織（協会・協議会）の役割」
- 10月号「どうする動画配信」
- 11月号「文化財修理の実状」
- 12月号「収蔵庫をめぐる問題」
  - 1月号「博物館における動物倫理・動物福祉」
  - 2月号「博物館の直面する課題・問題の改善・解決について」
  - 3月号「第71回全国博物館大会報告」

### (2) 第71回全国博物館大会の開催

館種や設置者の異なる全国の博物館関係者が一堂に会し、博物館の直面する課題である博物館の地域社会とのかかわり、魅力的な展示や教育普及活動の在り方、効果的な広報や情報の受発信等に関する最近の調査研究の内容や各博物館での取組等について情報交換・意見交換・討議を行い、博物館の充実・振興を図ることを目的に、本大会を実施している。

第71回全国博物館大会は、令和5年11月15日～17日の3日間、千葉県千葉市にある千葉市文化センターを主会場に、全国から約500名の博物館関係者が参加して開催された。新型コロナウイルス感染症の5類移行後初の大会となった。大会の様子は、後日YouTubeでの配信も行った（限定公開）。なお、大会期間中、千葉市文化センター（5F市民サロン）では千葉県政150周年にちなんだパネルが展示された。

- 主催 公益財団法人日本博物館協会
- 共催 千葉県博物館協会、千葉県、千葉市教育委員会
- 後援 文化庁、千葉市、千葉県教育委員会
- 協賛 株式会社乃村工藝社  
株式会社丹青社  
株式会社トータルメディア開発研究所  
東京海上日動火災保険株式会社
- 会期 令和5年11月15日（水）～11月17日（金）3日間
- 会場 千葉市文化センター アートホール（3階）
- 参加者 約500名
- 大会テーマ 「博物館法改正元年—つながり、交差する—」
- 表彰 顕彰：66名  
永年勤続者64名、特別表彰 2名  
棚橋賞：1名 博物館活動奨励賞：3名  
日本博物館協会賞（第4回） 1館
- 基調講演 「つながりをつくる博物館—多世代共創とウェルビーイング」  
講師：国立アトリサーチセンター ラーニンググループ副グループリーダー  
主任研究員 稲庭彩和子
- 全国博物館フォーラム「改正博物館法を現場の運営に活かす」
- ・文化庁からの行政報告  
講師：高井 絢（文化庁博物館振興室長）
  - ・パネルディスカッション  
講師：佐々木秀彦（アーツカウンシル東京企画部企画課長）  
講師：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸課長）  
司会：半田 昌之（日本博物館協会専務理事）
- 分科会1「デジタルアーカイブと博物館DX」
- コーディネーター：  
高科真紀（国立歴史民俗博物館 特任助教）  
講師：玉井里奈（千葉県立中央博物館研究員）  
講師：武田剛朗（大網白里市教育委員会副主査）  
講師：松尾知子（千葉市美術館 学芸課長）  
講師：小野百合子（沖縄県公文書館 公文書主任専門員）
- 分科会2「博物館と多様な主体」
- コーディネーター：  
小田真裕（船橋市郷土資料館 副主査）  
講師：中山 侑（千葉市動物公園 研究員）

講師：西川可奈子（佐倉市立美術館 学芸員）

講師：青木宏展（千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュートデザイン文化  
計画研究室助教）

郭庚 熙（千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュートデザイン文化  
計画研究室技術補佐員）

宮坂 新（館山市立博物館学芸係長）

講師：安曾潤子（インクルーシブミュージアム代表）

### 分科会3「地域の特性と博物館」

コーディネーター：

島谷理子（千葉県立中央博物館 生態・環境研究部長）

講師：尾上一明（浦安市郷土博物館 主任学芸員）

講師：門脇伊知郎（株式会社流山ツーリズムデザイン 代表取締役 CEO）

講師：金子謙一（市川自然博物館 学芸員）

講師：橋場万里子（パルテノン多摩 学芸担当係長）

### シンポジウム「博物館法改正元年—つながり、交差する—」（分科会の総括）

報告者：高科真紀（国立歴史民俗博物館 特任助教）

報告者：小田真裕（船橋市郷土資料館 副主査）

報告者：島谷理子（千葉県立中央博物館 生態・環境研究部長）

司会：半田昌之（日本博物館協会専務理事）

### 全体会議 第71回全国博物館大会決議を決定した

#### 第71回全国博物館大会決議

令和5年11月16日  
第71回全国博物館大会

第71回全国博物館大会は、「博物館法改正元年—つながり、交差する—」を全体テーマとして、公益財団法人日本博物館協会の主催および千葉県博物館協会・千葉県・千葉市教育委員会の共催のもと、文化庁・千葉市・千葉県教育委員会の後援を得て、令和5(2023)年11月15日から17日までの3日間にわたり千葉県千葉市において開催された。

今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響も未だ残る状況で開催されたが、全国から約490名が参加し、改正博物館法施行後の博物館運営の在り方について活発な議論が行われた。

世界的に博物館の社会的役割が大きく変化・多様化する状況のなかで、我が国においても、本年4月に施行された改正博物館法のもとで今後の博物館の在り方が問われている。博物館は、歴史文化・自然科学等多岐にわたる文化遺産の保存継承・活用を目的に、社会教育はもとより地域の文化振興を担う中核施設として機能しており、今大会の議論を通して、あらゆる人々の健全でかつ文化的生活を支えるために不可欠な社会基盤であることが確認された。

博物館が文化的社会基盤の役割を果たすためには、それぞれの博物館のみならず設置者が、その設置

目的を再確認し、充実した事業の展開に必要な財源の確保や人材の拡充・育成等、早急に着手すべき課題の解決に一層の努力をする必要がある。そのためには、自助努力と公的支援それぞれの必要性を認識し、博物館ならびに関係諸機関が一体となって、博物館のより良い運営に必要な組織・制度の改革や多様な支援体制の整備を進め、博物館全体の振興に取組み、その存在意義を社会に広く訴えることが重要であることも共有された。

ここに、第71回全国博物館大会の名において、博物館がより良い未来の創造に寄与することを願い、下記のとおり決議する。

## 記

### 1 (改正博物館法制度による博物館の基盤整備)

各博物館は、改正博物館法の趣旨を踏まえ、それぞれの設置目的や運営方針を見直しつつ、施設の特色・特性を活かした基本的機能の充実に努め、博物館はもとより、地域のさまざまな主体との連携の下に、利用者・社会から期待される役割に応え得る博物館活動を、持続的・発展的に展開するために努力する。

日本博物館協会は、引き続き新たな博物館法制度の理解促進のため、情報発信と博物館への支援に努める。その上で、文化審議会博物館部会等での審議を踏まえ、博物館の基本的機能や学芸員制度の充実をはじめ、公私立博物館に対する支援の拡充、必要な専門人材の確保・育成等、博物館の経営および財政基盤の強化に向けて、各博物館とともに努力する。また、そのためには公的支援の一層の拡充が不可欠であることを、国をはじめ公立博物館の設置者等に強く訴え、理解・協力を求める。さらに、超高齢化や人口減少が進むなかで、博物館における包摂性や公平性等が重視される国際的動向を踏まえ、社会から博物館への期待に対応できる体制整備に向け、多様な関係者との議論を深め、今後の制度・政策の検討に反映させるよう努める。

### 2 (連携・情報基盤としてのデジタル化の促進)

各博物館は、改正法に盛り込まれた博物館資料のデジタル化とアーカイブ化の充実が、利用者にとっての博物館の利用価値を高めるとともに、多様な連携の基盤として重要であることを認識し、コロナ禍で培われた様々なノウハウも活用しつつ、各施設の状況に応じて可能なDX(デジタル・トランスフォーメーション)への取組を促進し、情報発信力の強化に努める。

日本博物館協会は、利用者サービスの向上はもとより、博物館が社会の多様なセクターとの連携体制を整備し、情報発信機能の強化を図るために不可欠なDXの促進について、各博物館の運営実態や課題を把握し、博物館資料・情報のデジタルアーカイブ化、新たな技術の導入やAIの活用等について、全国の博物館へ広く普及させるためのネットワーク構築の在り方等について検討を進め、その支援のための政策の拡充を国等に強く働きかける。

### 3 (国際化の促進による博物館機能の充実)

各博物館は、国際情勢が大きく変化し博物館の役割が多様化しつつある状況を踏まえ、博物館活動の充実には、国際組織や海外博物館との連携が重要であることを認識し、ICOM(国際博物館会議)等の機関から発出される指針や情報を積極的に参照しつつ、各博物館の状況に応じた国際化と人材育成の促進に努める。

日本博物館協会は、ICOMの博物館定義に示された、SDGsへの対応をはじめあらゆる人々が平等にアクセスでき利用できる博物館のあり方等、我が国の博物館にも欠かせない重要な方向性について、関連する情報を広く関係者に周知共有するとともに、その内容を今後の制度や政策に活かすべく、ICOM日本委員会を中心に検討を進める。併せて、各博物館の国際化への取組を継続的に進展させるために不可欠な、学芸員等を国際会議への参加や研修等で海外に派遣するための支援の拡充を、国をはじめ関係機関・団体等に対し強く要請する。

### 4 (防災・減災・防犯体制の充実)

各博物館は、多発する地震や豪雨・火災等による大規模災害、および人災等を含めた博物館・文化財の被害を防ぎ、被災した博物館や文化財の復旧・復興を支援するために相互の連携を強化する。

日本博物館協会は、国立文化財機構文化財防災センターを核とする、地域および全国的な文化財・博物館施設全体の防災体制の構築・強化に努める。また、博物館での人為的な危険行為等へのリスク

が高まりつつある国際的状況を踏まえ、国連、UNESCO、ICOMやICOMOSをはじめとする関係国際機関との連携の下に、国際的な博物館や文化財の防災および防犯体制の強化に努める。

以上

### (3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、博物館の運営の在り方、経営基盤の強化、効果的な事業展開、地域のニーズ・地域に対する役割等の博物館をめぐる基本的問題について、館長の理解を深め、博物館の一層の普及を図るとともに、館長のリーダーシップに対する意識、能力の向上を目的に、全国博物館長会議を文部科学省と共催で開催している。令和5年度（第30回）全国博物館長会議は「転換期にあるミュージアム—いま何が求められているのか—」をテーマとして、文部科学省講堂で開催された。

主 催	文化庁・公益財団法人日本博物館協会	
開催期日	令和5年7月5日（水）	
開催場所	文部科学省 講堂	
参加者	約400名	
行政説明	文化庁博物館振興室長	高井 絢
事業説明	公益財団法人日本博物館協会専務理事	半田 昌之
報 告	日本博物館協会賞受賞館からの報告	
	公益財団法人 大原美術館 理事長	大原 あかね
個別講演	「資料保全と博物館連携—神奈川県を事例に—」	
	神奈川県立歴史博物館館長	望月一樹
	「博物館が連携するということ～岐阜県博物館協会の事例～」	
	美濃加茂市民ミュージアム館長	可児光生
	「栃木県立博物館のコレクションマネジメント関連規定とその運用」	
	栃木県立博物館前学芸部長	林 光武
	「ミュージアム DX：課題と展望」	
	文化庁博物館支援調査官	中尾智行

## 2 博物館に対する支援に関する事業

### (1) 博物館利用支援機器の支給

体の不自由な人、高齢者、子育て中の人等に対し、これらの人々の文化的、知的要求に応え、豊かな生活を支援し、もって博物館利用の促進を図るため、日本宝くじ協会の助成を得て博物館利用を支援する機器の支給を行っている。

令和5年度は、ベビーカー81台、車いす90台を支給した。

令和5年度の支給先博物館は、次のとおりである。

(ベビーカー寄贈先博物館一覧)

配布台数 81台

北海道立文学館、紋別市立博物館、青森県立三沢航空科学館、高岡の森弘前藩歴史館、岩手県立博物館、仙台市博物館、須賀川市立博物館、諸橋近代美術館、徳川ミュージアム、小山市立博物館、栃木県子ども総合科学館、栃木市立美術館、向井千秋記念子ども科学館、埼玉県立川の博物館、板橋区立郷土資料館、科学技術館、国立科学博物館、国立西洋美術館、ちひろ美術館・東京、練馬区立美術館、三井記念美術館、目黒寄生虫館、野球殿堂博物館、光ミュージアム、大磯町郷土資料館、神奈川県立生命の星・地球博物館、相模原市立博物館、茅ヶ崎市博物館、柏崎市立博物館、燕市分水良寛史料館、魚津水族博物館(魚津水族館)、富山県水墨美術館、石川県七尾美術館、石川県立歴史博物館、日本自動車博物館、七尾市役所 教育委員会 スポーツ・文化課(能登国分寺展示館様分)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、安曇野ちひろ美術館、茅野市八ヶ岳総合博物館、長野市立博物館、三重県総合博物館(MieMu)、MIHO MUSEUM、京都市動物園、京都鉄道博物館、京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所水族館(京都大学白浜水族館)、大阪府立弥生文化博物館、大阪歴史博物館、国立民族学博物館、堺市博物館、明石市立文化博物館、神戸市立青少年科学館(バンドー神戸青少年科学館)、姫路文学館、姫路市立水族館、奈良国立博物館、和歌山県立自然博物館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、島根県立三瓶自然館、大原美術館、岡山県立美術館、広島市交通科学館(ヌマジ交通ミュージアム)、福山市鞆の浦歴史民俗資料館、大塚国際美術館、愛媛県歴史文化博物館、西予市立美術館ギャラリーしろかわ、松山市考古館、松山市坂の上の雲ミュージアム、松山市立子規記念博物館、甘木歴史資料館、大野城心のふるさと館、北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)、九州国立博物館、亀陽文庫 能古博物館、福岡市博物館、長崎県美術館、熊本市 熊本博物館、御船町恐竜博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム、大分市美術館、名護博物館

(81館)

(車いす寄贈先博物館一覧)

配布台数 90台

小樽市総合博物館、釧路市立博物館、北海道博物館、弘前市立博物館、大船渡市立博物館、白瀬南極探検隊記念館、秋田市立千秋美術館、致道博物館、山形県立博物館、いわき市勿来関文学歴史館、いわき市立美術館、福島県立美術館、茨城県陶芸美術館、栃木市立文学館、館林市立資料館、角川武蔵野ミュージアム、行田市郷土博物館、伊能忠敬記念館、鴨川シーワールド、航空科学博物館、国立歴史民俗博物館、千葉市立加曽利貝塚博物館、和洋女子大学文化資料館、GAS MUSEUM がす資料館、菊池寛実記念 智美術館、秩父宮記念スポーツ博物館、東京国立博物館、東京都恩賜上野動物園、東京都葛西臨海水族園、明治大学博物館、下田海中水族館、東海大学海洋学部博物館、藤枝市郷土博物館 藤枝市文学館、富士市立博物館(富士山かぐや姫ミュージアム)、ベルナル・ビュフェ美術館、岡崎市美術博物館、桑山美術館、名古屋港水族館、西尾市岩瀬文庫、博物館明治村、神奈川県立歴史博物館、女子美術大学美術館 女子美アートミュージアム、彫刻の森美術館、鶴岡八幡宮宝物殿、平塚市博物館、横浜みなと博物館、新潟県立近代美術館、射水市新湊博物館、金沢市立安江金箔工芸館、下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館、田中新左エ門・辨蔵記念館、長野県立美術館、赤彦記念館、田中新左エ門・辨蔵記念館、長野県立美術館、

鳥羽水族館、三重県立美術館、滋賀県立美術館、京都国立博物館、大阪音楽大学音楽メディアセンター 楽器資料館、大阪市立科学館、兵庫県立考古博物館、兵庫陶芸美術館、法隆寺大宝蔵殿、大和文華館、歴史に憩う橿原市博物館、アドベンチャーワールド、太地町立くじらの博物館、倉敷市立美術館、広島市郷土資料館、広島市現代美術館、広島城、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）、下関市立美術館、松陰神社宝物殿至誠館、東行記念館、萩博物館、山口県立萩美術館・浦上記念館、山口県立美術館、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館 阿波木偶資料館）、高松市美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、新居浜市広瀬歴史記念館、高知県立歴史民俗資料館、海の中道海洋生態科学館（マリンワールド海の中道）、北九州市立小倉城庭園、九州歴史資料館、福岡県立美術館、福岡市美術館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、祐徳博物館、熊本県立美術館、宮崎県立西都原考古博物館  
(90館)

## (2) 博物館総合保険

博物館利用者の安全の確保と博物館の財政的軽減を図るため、博物館総合保険に関するとりまとめ事務を行った。

令和5年度博物館来館者傷害保険及び施設賠償責任保険の加入館は、178館であった。

＜令和5年度の支給状況＞

- I 施設賠償責任保険制度（施設賠償責任保険）： 3件
- II 見舞金制度（レジャー・サービス施設費用保険）： 6件

No.	事故内容	被保険者	賠償/ 見舞金
1	職員による剪定作業中、電柱ケーブルにバリカンが接触し、停電事故発生	市町村	賠償
2	展覧会から帰る際、階段でバランスを崩し転倒、転落した。	男性（88歳）	見舞金
3	施設貸与スペース 展示設営中に梯子から落下し左半身の後頭部、腰を強打	女性	見舞金
4	スロープを走っておりていたところ、躓いて転倒、壁に額をぶつけ流血	男性	見舞金
5	躓き転倒	男性（4歳）	見舞金
6	通路の滑り止めを止めている金具に被害者が足を引っかけて転倒し負傷し、眼鏡も破損	女性	賠償/ 見舞金
7	館の大階段で転倒	女性	見舞金
8	公開実験ショーを開催中に、物を燃やす実験を行った際、アクリル製容器が破損し、アクリル破片が飛散し観覧者が負傷した	女性 2名	賠償

## 3 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

### (1) 博物館登録制度の在り方に関する調査研究

令和4年4月に改正博物館法が公布され、令和5年4月の施行の準備が進められる中で、引き続き文化審議会博物館部会への参画を中心に、今後の博物館制度のあり方、博物館振興について積極的に取り組んだ。また、法改正施行に向けて文化庁が実施した公募型の委託事業「新登録制度

推進のための実施体制支援及びプロモーション活動事業」を受託し、登録博物館数及び指定施設数の増加を目的として、登録審査事務等の業務を行う都道府県及び政令指定都市の職員に向けた助言や研修を行うとともに、博物館の職員をはじめ、広く登録博物館制度及び博物館の社会的役割を周知するためのプロモーション活動を推進した。

#### (2) 博物館総合調査の実施

概ね5年を目途に、日本の博物館の実態を把握するため、昭和49年以降実施してきた「博物館総合調査」は、博物館法改正に対する衆参両院での審議等でも、博物館の運営実態を示す資料として多用されているところである。次回調査については、令和6年度の実施に向けて、令和5年11月7日(火)に第1回委員会をオンライン方式で開催した。同委員会においては、経年変化を把握する目的から、調査項目については原則、前回調査を踏襲するものとしつつ、コロナ禍への対応とその影響、博物館改正法に係る項目を新設することで同意がなされた。今後、調査票の精緻化、実査の期間、回答方法の整備等を順次進める予定である。

#### (3) 出版物等による情報の提供

博物館関係者に対し、博物館運営や活動に関する新たな企画・立案や他の博物館等との連携事業の推進を図るため、博物館にかかわる調査研究成果や博物館に関する法令・基準、博物館専門職員名簿等の博物館運営や活動に関する基礎的な資料及び情報を提供する事業を行っている。

令和5年度の出版物等による情報の提供等は次のとおりである。

- ・「全国博物館総覧」の編集
- ・「令和5年度版全国博物館園職員録」の作成・配付
- ・既出版図書・「博物館研究」バックナンバーの配布

#### (4) ホームページ等による情報の発信

当協会の取り組み、博物館運営や活動に係る情報や会員館の紹介などを掲載しているホームページのリニューアルを行い、総合的な機能向上を図ることにより情報の発信力を強化。

### 4 博物館関係者に対する資質向上に関する事業

#### (1) 研究協議会等

研究協議会は、博物館の学芸員等が専門的諸課題やその改善の方策等についてお互いの実践経験や知識を基に研究協議を行い、更なる資質を向上させることを目的として行っているものである。令和5年度については、2回の研究協議会を開催した。

<第1回研究協議会> 「新収蔵庫棟と資料のデジタル化を通じた標本の整備と活用」

日 時：令和6年2月23日(金・祝) 11:00～16:45

共 催：兵庫県立人と自然の博物館 / NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク

会 場：兵庫県立人と自然の博物館(兵庫県三田市弥生が丘6)

内 容：講演 1：三橋 弘宗（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

「新収蔵庫棟コレクションナリウムの設計コンセプトと運営について」

＊＊施設見学（コレクションナリウムを中心に）＊＊

講演 2：高野 温子（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

「植物標本 60 万点の引っ越しと、デジタル化を含めた新しい標本整理法の導入」

ワークショップ：

「クラウド型自然史標本整備と活用ツールの使い方について」

参加者数 36 名

<第 2 回研究協議会> 「これからの『対話と連携の博物館』 1 博物館と図書館 ML(A)連携  
の可能性」

日 時：令和 6 年 3 月 6 日（水） 13：30～17：30

企画協力：次世代型文化施設フォーラム

開催形式：オンライン（Zoom）による開催、後日アーカイブ配信あり

内 容：次世代型文化施設フォーラムについて（フォーラム）

基調報告：森いづみ（県立長野図書館長）

「信州知の連携フォーラムの取り組みから」

事例報告：3 例

1 呉屋美奈子（恩納村文化情報センター係長）

「図書館が博物館に期待すること、地域資料をめぐって」

2 矢ヶ崎結花（太田市図書館・美術館学芸員）

「複合施設による機能連携、学芸員の立場から」

3 楯石もも子（江戸東京博物館司書）

「博物館内の MLA 連携 ミュージアム・ライブラリアンの立場から」

総合討論

基調報告・事例報告発表者

指定コメンテーター：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸課長）

福島 幸宏（慶應義塾大学文学部准教授）

持田 誠（浦幌町立博物館学芸員）

モデレーター：佐々木秀彦（アーツカウンシル東京企画部企画課長）

申込者数 420 名\*

※申込者に対するオンラインリンクの送信が不完全であったことから、当日参加できなかった申込者が発生した。研究協議会終了後、オンデマンド配信情報を付したお詫びメールを送付。

## （2）美術品梱包輸送技能取得士認定試験

博物館や美術館の美術品の取扱い、特に梱包や輸送の技能や知識の継承とともに、博物館における競争入札の導入による美術品の毀損等による事故を防止し、後継者を養成することで、美術品取扱いの知識や技能の維持・向上を図るため、平成 20 年度における「美術品取扱い技術等に

かかわる委員会」を設置、検討に着手した。以後、平成26年度からは3級・2級・1級試験を本格実施している。

令和5年度については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、受験者の定員数を令和元年度の水準とするとともに、2、3級の陶磁器実技は従来の助手をつける方式に戻した。

< 3級認定試験 >

試験日 令和6年2月17日(土)、18日(日)

試験時間 9時40分から16時30分

試験場所 東京国立博物館 平成館(小講堂、第1会議室～第4会議室)  
黒田記念館 セミナー室

受験者 85名 合格者 46名 不合格者 39名

試験科目 実技試験(額装および掛物/陶器)、筆記試験(筆記免除 8名)

< 2級認定試験 >

試験日 令和6年2月17日(土)、18日(日)

試験時間 9時40分から16時30分

試験場所 東京国立博物館 平成館(小講堂、第1会議室～第4会議室)  
黒田記念館 セミナー室

受験者 41名 合格者 29名 不合格者 12名

試験科目 実技試験(茶道具/陶器)、筆記試験、口頭試問

< 1級認定試験 >

試験日 令和5年8月5日(土)

試験時間 10時00分から17時30分

試験場所 東京国立博物館平成館 会議室

受験者 10名 合格者 2名 不合格者 8名

試験科目 筆記試験、口頭試問

### (3) 顕彰事業

#### 1) 博物館功労者表彰

博物館功労者顕彰規程第2条に基づき、博物館活動に貢献のあった博物館関係者に対し顕彰を行っている。(同条第1号：日本博物館協会又は博物館に20年以上にわたり永年勤続し、他の模範となる者、第2号：協会又は博物館の事業に対し、顕著な功績のあった者、第3号：協会又は博物館の防火、防災等に挺身し、功労のあった者、第4号：協会又は博物館に対し、多額の金品を寄附した者。)令和5年度は、第1号の該当者64名、第4号の該当者2名に対し顕彰を行った。

#### 2) 棚橋賞、博物館活動奨励賞

我が国における博物館学研究の先駆者である故棚橋源太郎氏の功績を記念し、月刊誌「博

博物館研究」の優秀論文の著者に対し「棚橋賞」を、優れた実践報告に「博物館活動奨励賞」を贈呈しており、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会での審議の結果、令和5年度の棚橋賞、博物館活動奨励賞の受賞者は次のとおりであった。

#### 棚橋賞

受賞者：西浦 直子氏（国立ハンセン病資料館学芸員（事業部事業課長））

受賞論考：「変革の力を得る場としての博物館」

#### 博物館活動奨励賞

受賞者：若松 杏奈氏（鳥取県立博物館総務課主事）

受賞論考：「公募型のオリジナル・ミュージアムグッズの開発とその影響」（投稿）

受賞者：山本 堯氏（泉谷博古館学芸員）

受賞論考：「中小規模美術館における調査研究のいまー泉谷博古館の実戦例から」

顕彰等は、令和5年11月15日の第71回全国博物館大会開会式において表彰が行われた。※所属部署・役職は授賞当時のもの

### 3) 日本博物館協会賞

昨年度受賞が決定した第4回日本博物館協会賞（以下、協会賞）受賞館である明石市立天文科学館の授賞式を第71回全国博物館大会の開会式で行った。

受賞館は受賞翌年度の全国博物館長会議で館の活動内容につき発表することとなっており、第4回協会賞受賞である明石市立天文科学館は令和6年度全国博物館長会議（令和6年7月3日開催予定）に登壇する予定である。

また、第5回協会賞の選考委員会（委員長：栗原祐司理事、委員外6名）を令和6年3月4日に日本博物館協会会議室で開催した。検討の結果、小樽市総合博物館が選ばれ、第41回理事会で承認された。同館は The Best in Heritage (TBIH) に日本の代表館として推薦される。

## 5 博物館の国際交流に関する事業

### (1) 「国際博物館の日」に関する事業

ICOM（国際博物館会議）が提唱する「国際博物館の日」の事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、5月18日の「国際博物館の日」を中心に、共通テーマである「”Museums, Sustainability and Well-being”（博物館と持続可能性、ウェルビーイング）」に基づき、全国の博物館に記念事業の実施を呼びかけた。結果的には、全国の109館園で158件の教育普及プログラムや入館料減免、記念品贈呈などの行事

が実施された。

5月21日には、国際博物館の日記念シンポジウムを国立科学博物館で開催した。「博物館と持続可能性、ウェルビーイング」をテーマとして、事例発表、地域の若手学芸員と青柳委員長との対談を実施し、会場には96名が参加した。開催後にはオンデマンド配信を行い約300回視聴された（4月末現在）。

## (2) 国際化・情報発信力の強化

ICOM 日本委員会の公式ホームページとともに、Facebook も活用しつつ、国内の博物館の様々な取組みに関する現場からのレポートや、ICOM 本部の情報など、内外の博物館に関する最新の情報を日英2か国語で発信した。ホームページに掲載したジャーナルを自国の言語に翻訳して掲載したいとの依頼もあり協力を行なった（ICOM 韓国委員会「Museum Connection」）。

## (3) その他の国際交流事業

新型コロナウイルス感染症の収束状況下において、ICOM の国際委員会をはじめとした国際会議の現地開催は活発化しているものの、令和5年度においては文化庁の在外派遣に係る補助金事業が実施されなかったこともあり、当該会議への日本からの参加者は少数にとどまった。

例年日本から推薦を行っている The Best in Heritage については、第3回日本博物館協会賞を受賞した大原美術館を推薦したが、令和4年度と同様に現地（クロアチア）での会議・授賞式はおこなわれず、オンラインでの発表形式で実施されウェブサイトに掲載された。

## 6 その他の事業

### (1) 地区博物館活動への支援

各地区単位の博物館の会議に共催者として、専務理事等の派遣及び情報提供等を行った。

### (2) 大規模災害関係支援事業の実施

#### 1) 文化遺産防災ネットワーク推進会議への参画

国立文化財機構による文化遺産防災ネットワーク推進会議の構成団体（幹事団体）として、同会議及び防災関連のシンポジウム等への出席等をとおして、博物館の防災に関する情報の共有に努めるとともに、日博協10支部の自然災害による文化財被災状況の情報共有を図った。

#### 2) 令和6年能登半島地震救援活動への参画

文化庁から国立文化財機構 文化財防災センター（ぶんぼう）に委託された救援事業の参画団体として、現地の救援活動への職員派遣について協力した。具体的には、会員博物館への呼びかけ、参加希望者リストの作成、現地派遣希望者の募集、ぶんぼうとの調整といった手続きを3月下旬より開始し、令和6年度も継続中である。

### 3) 大規模災害で被災した博物館・文化財への支援活動への参加及び支援金の募集

東日本大震災の復興支援、令和元年度9月～10月にかけて襲来した台風19号による大規模水害に伴う博物館関連の被害について、長野市立博物館では、市民ボランティアの方々が、また川崎市民ミュージアムについては、都内の博物館の方々にレスキュー活動にご参加いただいている。

### 4) Innovate MUSEUM 事業への参画

平成26年度から継続実施している、陸前高田市立博物館の復興、被災資料の修復を支援するための文化庁助成事業について、岩手県立博物館を中核館として「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト」として、東北地域を中心とする広域の防災ネットワークの形成による、防災・減災についての課題解決を目的として展開した。

今年度については、(1) 広域連携による博物館・文化財等の地域防災モデルケース創出、(2) 被災資料・災害遺構を媒介とした全国規模の防災ネットワーク構築、(3) 博学連携を通じた次世代の博物館・文化財等防災担い手育成に焦点をあて、実践的な活動を展開した。

### (3) 文化庁委託事業に対する協力

令和5年度「博物館機能強化推進事業（経営基盤強化に向けた組織改革の促進に関する実証事業）」は、博物館振興団体に対して期待する事業や運営スキームの実践的な調査研究の遂行を目的とした文化庁委託事業である。本委託事業は株式会社丹青研究所が受託したが、日博協は、多様な館種を対象とした唯一の博物館振興団体として、本委託事業に参加した（再委託）。

事業を推進するにあたっては、事務局である丹青研究所を中心に、デスクトップ調査を始め、運営資金調達に係る研究会（6回）や、多様な分野の有識者によって構成された検討委員会（3回）を開催し、事業及び運営スキームの取りまとめを行った。令和6年3月10日、本委託事業で得られた成果と課題を共有するため、オンライン方式による事業成果のシンポジウムを開催し、博物館関係者を中心に100名を超す参加者により多面的な議論が行われた。

## 7 会議等

令和5年度は、次のように理事会及び評議員会等を開催した。

### <理事会>

#### 第38回理事会

開催日 令和5年6月8日（木）

開催方式 日本博物館協会会議室及び ZOOM によるオンライン会議

#### 議 題

- 1 令和4年度事業報告及び収支決算について (第1号議案)
- 2 参与の選任について (第2号議案)
- 3 定時評議員会招集及び提出議案について (第3号議案)
- 4 報告事項  
①新入会員・退会会員について

- ②業務執行状況報告について
- ③第71回全国博物館大会（千葉大会）の開催について
- ④令和5年度文化庁委託事業の受託について
- ⑤令和5～6年度 理事候補者の推薦について

#### 第39回理事会（臨時）

開催日 令和5年6月26日（月）

開催方式 電磁的記録（電子メール）を用いた理事会の決議の省略の方法による。

##### 議 題

- 1 代表理事（会長）、副会長、専務理事の選任について（第1号議案）

#### 第40回理事会（臨時）

開催日 令和5年9月11日（月）

開催方式 電磁的記録（電子メール）を用いた理事会の決議の省略の方法による。

##### 議 題

- 1 令和5年度顕彰候補者の承認について
- 2 令和5年棚橋賞受賞者の承認について
- 3 令和5年博物館活動奨励賞受賞者の承認について
- 4 令和5年6月8日～令和5年9月5日 新入会員・退会会員の報告について

#### 第41回理事会

開催日 令和6年3月15日（金）

開催方式 日本博物館協会会議室及びZOOMによるオンライン会議

##### 議 題

- 1 令和6年度事業計画及び収支予算案について（第1号議案）
- 2 第5回日本博物館協会賞選考結果について（第2号議案）
- 3 第72回全国博物館大会（長野大会）開催について（第3号議案）
- 4 2024年国際博物館の日シンポジウム開催について（第4号議案）
- 5 報告事項
  - ① 新入会員・退会会員について
  - ② 職務執行状況報告について
  - ③ 2024年度「博物館研究」特集テーマについて

#### <評議員会>

##### 第12回評議員会

開催日 令和5年6月26日（月）

開催方式 日本博物館協会会議室及び ZOOM によるオンライン会議

議 題

- 1 令和 4 年度事業報告及び収支決算について (第 1 号議案)
- 2 理事の改選について (第 2 号議案)
- 3 監事の辞任に伴う新監事の選任について (第 3 号議案)
- 4 評議員の選任について (第 4 号議案)
- 5 その他報告事項
  - ① 令和 5 年度事業計画及び収支予算について
  - ② 第 71 回全国博物館大会 (千葉大会) 準備状況について
  - ③ 第 4 回日本博物館協会賞選考結果について

<委員会>

日本博物館協会の円滑且つ適正な運営を確保するため、日本博物館協会支部長会 (1 回)、日本博物館協会参与会 (1 回) を開催した。

また、日本博物館協会の事業を適正に推進するため、博物館研究企画編集委員会 (1 回)、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会 (1 回)、博物館功労者選考委員会 (1 回)、日本博物館協会賞選考委員会 (1 回) を開催した。